

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年7月4日（金）

2 確認箇所

運用補助共用施設（共用プール建屋）（図1）

3 確認項目

共用プールにおける使用済燃料の保管状況

4 確認結果の概要

東京電力は、使用済燃料の保管にあたり、各原子炉建屋の使用済燃料プール（SFP）での保管と比較し、共用プールにおける集中保管の方が安全性が高いため、使用済燃料の共用プールへの移送を進めている。一方、十分に冷却が進んだ使用済燃料は、共用プールの空き容量確保のため、乾式キャスク（1基あたり使用済燃料を69体保管可能）に装填し、構内の乾式キャスク仮保管設備に移送している。

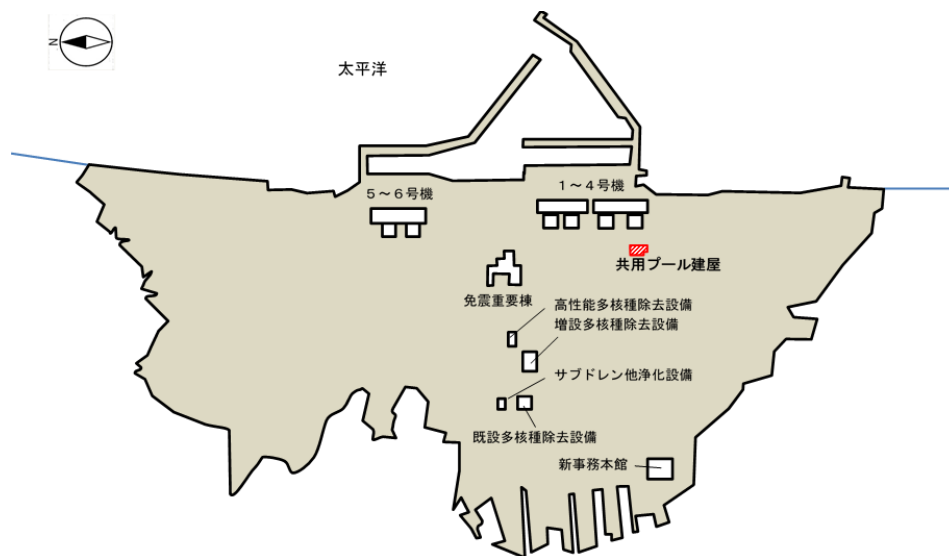
当該共用プールでは、令和7年6月10日午前9時50分頃にライナドレンから流量高の警報が発生し、ライナドレン配管に液体が流れていることが確認された。東京電力による現場確認の結果、使用済燃料を格納した乾式キャスクの搬出に向け、共用プール外でキャスク上部に溜まった水をホースで吸引して共用プールに戻す作業中、ロープで固定していた出口側のホース先端部がプール外にずれ、ホース先端部から出た水がライナドレンに流れ込んだことが原因と推定した。このため、再発防止に向けホース先端を金属製の治具で固定する対策を講じている。

また、令和4年度の共用プール建屋における空き容量確保作業中、3号機原子炉建屋のSFPで保管していた使用済燃料を装填した3基の乾式キャスクの気密性が基準を満足しないことが確認された。この原因としては、東日本大震災時、3号機原子炉建屋の水素爆発により建屋上部が破損した際、燃料集合体に付着したガレキ（コンクリート片）由来のカルシウム成分が3号機SFPに混入し、キャスクの接合部に入り込んだためと推定されている。この対策として東京電力では、燃料集合体に堆積したガレキの除去作業を実施している。

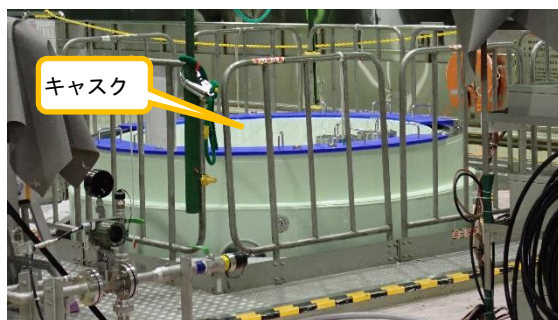
今回は、再発防止策の運用状況、共用プールにおける使用済燃料の保管及び周辺状況について確認した。（前回確認：[令和7年6月13日](#)）

- ・現場確認時、使用済燃料の搬出作業は行っておらず、搬出口にキャスクが仮置きされていた。（写真1）
- ・燃料集合体に堆積したガレキを除去する設備のうち、共用プール水からガレキを取り除くフィルターの交換作業が行われていた。（写真2）

- ・確認した範囲において、共用プールからの溢水は認められなかった。（写真3）
- ・共用プールの水位は正常であり、使用済燃料の冷却状況に問題はなかった。（写真4）
- ・共用プールの地下階には、共用プールからの漏えいを検知するための装置（漏えい目視箱）が設置されており、確認時に異常は認められなかった。（写真5）



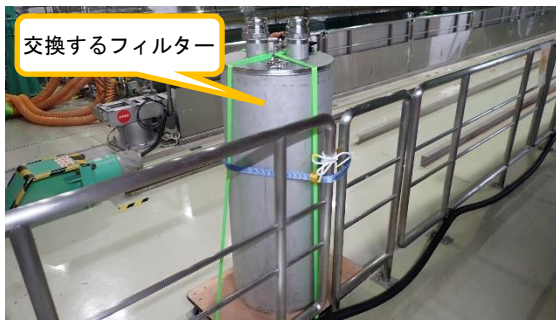
（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1）
キャスクの仮置き状況



（写真2－1）
フィルター交換作業①



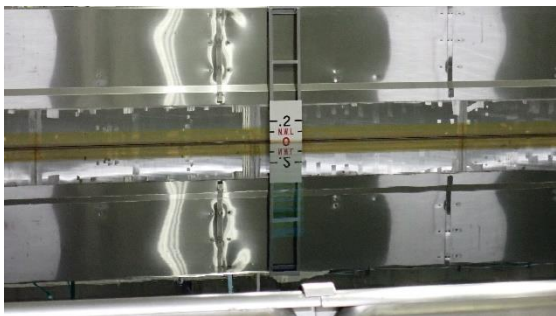
(写真 2 - 2)
フィルター交換作業②



(写真 3 - 1)
共用プール周囲の状況①



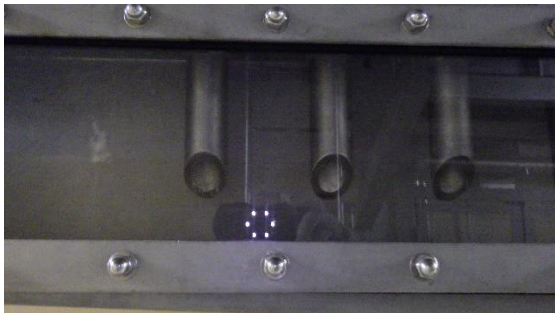
(写真 3 - 2)
共用プール周囲の状況②



(写真 4)
共用プールの水位



(写真 5－1)
使用済燃料共用プール漏えい目視箱
の設置状況①



(写真 5－2)
使用済燃料共用プール漏えい目視箱
の設置状況②
※水滴は確認されなかった。

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。